

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：16301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K18935

研究課題名（和文）思春期におけるインターネット依存の病態解明と予防マニュアルの開発

研究課題名（英文）Elucidation of internet addiction and create of prevention manual in adolescence

研究代表者

河邊 憲太郎（KAWABE, KENTARO）

愛媛大学・医学系研究科・准教授

研究者番号：90457375

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、令和3年度にインターネット依存に関する注意喚起のためにも、予防マニュアルとしてハンドブックを作成した。予防マニュアルとして、「インターネット依存・ゲーム障害について」という保護者を含めた家族向けの冊子と、「インターネット依存・ゲーム障害の理解と対応」という学校関係者向けの冊子を作製した。さらに、予防教育が学校で可能であるかを検討するため、学校教員に予防教育に向けたアンケートを実施した。結果として、小学校においてネット依存の概念は浸透しており、半数の教員が保護者からの相談を受けていることがわかったため、学校教員を介した指導が有効であることが推測できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インターネット依存は社会的問題となりつつある。学校ではGIGA政策により、1人1台端末が準備されている。また、中学生のスマートフォン所持率は9割を超えている。そのため、今後も問題が続くインターネット依存に対して、一定の対応法が確立できたと思われる。

研究成果の概要（英文）：In this study, a handbook was created in 2021 as a prevention manual to alert people about Internet dependence. As prevention manuals, a booklet for family members including parents titled "About Internet Dependence and Game Disorder" and a booklet for school personnel titled "Understanding and Responding to Internet Dependence and Game Disorder" were prepared. Furthermore, in order to examine whether preventive education is feasible in schools, a questionnaire for preventive education was sent to school teachers. As a result, it was found that the concept of Internet dependence is widespread in elementary schools and that half of the teachers receive consultation from parents, so it could be inferred that guidance through school teachers is effective.

研究分野：児童精神医学

キーワード：児童精神医学 ネット依存 ゲーム障害 ゲーム依存

1. 研究開始当初の背景

インターネットは新しいコミュニケーションおよび情報収集ツールとして広く浸透し、すでに生活の一部となっているため、思春期の子どもでも触れる機会が増加している。特に子どもではインターネット使用の制御が困難となりやすく、インターネット依存症(以下、IAD)が社会的問題となっている。

思春期のインターネット過剰使用は、身体機能の低下、不眠、不安、抑うつ、自尊心の低下など様々な身体・精神症状や学習能力低下や不登校などの生活上の問題をきたしうる(Song et al, Cyberpsychol Behav, 2004)。

申請者の以前の報告では、2014年に地域中学生を対象に調査を行い、中学生男子の21.9%、女子の25.5%にIADが疑われ、関連要因としてスマートフォン利用が問題であったことを報告した(Kawabe et al. Psychiatry Clin Neurosci, 2016)。同地域で2018年に再調査を行ったところ、中学生男子の29.7%、女子の31.7%にIADが疑われる結果であり、より深刻化していることが明らかとなった(図1: Kawabe et al. in submission)。2018年6月に世界保健機関(WHO)から公表されたICD-11(国際疾病分類)では「ゲーム障害」が新しい診断基準として記載されるなど、IADは更に注目を集めている。

今後IADへの対策をたてるためには、家族背景、学校環境の問題との関連を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、IADに関して中学生の近年の実態を調査し、心理的・精神的問題を調査するとともに、家庭生活状況および友人関係を含めた学校関連の問題においても質問紙調査を行い、得られた結果を検討し、本人のみならず家庭・学校にも注意喚起が可能なIADの予防を目的としたマニュアルの作成を目的とした。

3. 研究の方法

- 1) 中学生のIAD有病率調査、精神健康度調査、家族要因および学校要因の影響を調査、以上の調査について統計解析を行い、中学生におけるIADの実態解明を行う。
- 2) IADの要因を把握し、各要因に対する対応方法について検討を重ね、本人および支援者である保護者や学校教職員との連携により問題の抽出を行う。
- 3) 学校における予防教育にも寄与できる実態に即したマニュアルを策定する。

4. 研究成果

本研究が開始された時期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、研究活動においても対人的な活動が自粛されていた。そのため、研究の目的の中で対人的な活動が少ない予防教育に関するハンドブックを作成した。

作成したものは、「インターネット依存・ゲーム障害について」という保護者を含めた家族向けの冊子と、「インターネット依存・ゲーム障害の理解と対応」という学校関係者向けの冊子を製作した。愛媛県内の小学校を中心に12000部配布し、インターネット依存の注意喚起に取り組んだ。

配布に関連して、予防教育が学校で可能であるかを検討するために、学校教員に予防教育に向けたアンケートを実施した。2021年10月から12月の期間に愛媛県内の公立小学校教員に対して、調査は無記名で283人の教員が回答した。「学校で予防教育を行うべき」という質問には271人(96.1%)が行うべきだと回答し、調査時点で学校として取り組みを聞いたところ、11%が予防教育の定期的な取り組みをし、31%が年1回以上の講義または指導をし、半数程度の学校が生徒たちに配るプリント等で注意喚起をしていると、ほとんどの学校が何らかの取り組みをしていた。一方、予防教育についての懸念点としては、予防教育の実施・運用に必要な情報が不足していると半数以上が答えた。教員自身の経験を尋ねる質問結果では、「自分が関わる生徒にネット依存の生徒がいる」は75人(26.5%)、「生徒のネット依存に気づき親に伝えたことがある」は70人(24.7%)、「生徒にネットに関して注意した経験がある」は169人(59.7%)、「同僚や上司に相談した経験がある」は131人(46.3%)であった。本調査でわかったことは、小学校においてネット依存の概念は浸透しており、半数の教員が保護者からの相談を受け、内容はゲームのことや生活リズムについての相談が多いことであった。

調査期間内で新たに得た情報は以上であるが、今後は具体的な対応などについて、申請者の臨床課題として研究を続ける所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Kawabe Kentaro, Horiuchi Fumie, Hosokawa Rie, Nakachi Kiwamu, Soga Junya, Ueno Shu-ichi	4. 巻 12
2. 論文標題 Influence of an Esports Program on Problematic Gaming in Children with Autistic Spectrum Disorder: A Pilot Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Behavioral Sciences	6. 最初と最後の頁 172 ~ 172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/bs12060172	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kawabe Kentaro, Horiuchi Fumie, Hosokawa Rie, Nakachi Kiwamu, Soga Junya, Ueno Shu-ichi	4. 巻 27
2. 論文標題 Comorbid symptoms of internet addiction among adolescents with and without autism spectrum disorder: a comparative study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Adolescence and Youth	6. 最初と最後の頁 315 ~ 324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02673843.2022.2091939	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kawabe Kentaro, Horiuchi Fumie, Uno Hiroyuki, Nakachi Kiwamu, Hosokawa Rie, Oka Yasunori, Ueno Shu-ichi	4. 巻 8
2. 論文標題 Parent-Adolescent Agreement on Adolescents' Emotional and Behavioral Problems Assessed by the Strengths and Difficulties Questionnaire	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Global Pediatric Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2333794X211001245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kawabe Kentaro, Horiuchi Fumie, Hosokawa Rie, Nakachi Kiwamu, Ueno Shu-ichi	4. 巻 18
2. 論文標題 Association between Internet Addiction and Application Usage among Junior High School Students: A Field Survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 4844 ~ 4844
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18094844	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河邊憲太郎	4. 巻 3
2. 論文標題 インターネット依存・ゲーム障害の現状と薬物療法の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 267 ~ 276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawabe Kentaro, Hosokawa Rie, Nakachi Kiwamu, Yoshino Ayumi, Horiuchi Fumie, Ueno Shu-ichi	4. 巻 8
2. 論文標題 Excessive and Problematic Internet Use During the Coronavirus Disease 2019 School Closure: Comparison Between Japanese Youth With and Without Autism Spectrum Disorder	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Public Health	6. 最初と最後の頁 1 ~ 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpubh.2020.609347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawabe Kentaro, Hosokawa Rie, Nakachi Kiwamu, Yoshino Ayumi, Horiuchi Fumie, Ueno Shu ichi	4. 巻 74
2. 論文標題 Making a brochure about coronavirus disease (COVID 19) for children with autism spectrum disorder and their family members	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 498 ~ 499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 河邊憲太郎
2. 発表標題 小学生のインターネット依存に対する予防教育の実際-愛媛県全域における小学校教職員の意識調査-
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河邊憲太郎
2. 発表標題 本邦での新型コロナウイルス感染拡大防止の為の長期間自粛が子どものメディア利用に及ぼした影響
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【刊行物】家族・教職員を対象としたネット・ゲーム依存対応ハンドブック https://www.m.ehime-u.ac.jp/neurodevelopment/2021/09/10/post-183/</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関